

甲斐市立竜王中学校 自己評価書

令和7年 1月17日(金)作成

校長 坂本 公彦

記述者 教頭 林 健一郎

学校教育目標

- ◎ 自ら学ぶ生徒 (知育)
- ◎ さわやかで心豊かな生徒 (徳育)
- ◎ たくましく生きる生徒 (体育)

生徒の努力目標

- 確かな学力は「生きる力」……授業へ真剣に主体的に取り組もう。
- あいさつは「心の交流」……さわやかな挨拶をかわそう。
- 継続は「力」なり……根気よく心身の鍛錬に取り組もう。

・自ら学ぶ授業にしよう	・思いやりの心を育てよう
・学校や仲間のために働こう	・部活動を活発にしよう

学校経営方針

(1) 第2次創甲斐教育推進大綱「学校教育指導方針」を具現化した教育を推進する。

(2) 学習指導

- ①一人ひとりの能力や適性を適確に把握し、個に応じる指導法の工夫・改善に努め、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。(ICTを効果的に活用した授業づくり、個別最適な学びと協働的な学びの充実)
- ②生徒の意欲や体験的な活動を重視し、既習事項を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成に努める。
(主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善)
- ③教科への興味関心を高め、学習意欲を引き出し、家庭学習に自主的に取り組む生徒を育てる。(家庭学習と授業の連動)
- ④「主体的に学習に取り組む態度」を育てるための評価の工夫。(学習の振り返り 行動観察 単元全体の振り返り)

(3) 生徒指導

- ①「凡事徹底」を心がけるとともに、規範意識を育み、基本的生活習慣の確立を図る。
- ②生徒一人ひとりを適切に理解し、好ましい人間関係を構築する。
- ③学校、家庭、地域、関係機関との密接な連携による生徒指導を推進する。
- ④不登校生徒に対する理解を深め、連携を密にし、生徒・保護者に寄り添った指導を行う。
- ⑤いじめの未然防止、早期発見、早期対応に全職員が共通理解のもと取り組む。

(4) 道徳指導 …「道徳的価値の自覚を促し、道徳的实践力を育てる」

- ①多様な他者を尊重し、思いやりの心をもち、認め合い励まし合う態度を育てる。
- ②自立心や自立性を高め、規律ある生活をしようとする態度を育てる。
- ③教科としての道徳授業の改善に努め、道徳的实践力の向上に努める。

(5) 特別活動

〈学級活動〉

- ・望ましい学級集団づくりを通して、よりよい人間関係を築く。(Q-Uの活用)
- ・一人ひとりが役割と居場所のある学級づくりを進める。(所属感、自己有用感)

〈生徒会活動〉

- ・学校生活を楽しく充実したものにするため自治的集団活動を展開する。
- ・生徒の自主性、協調性を育成し、生徒相互の人間関係づくりを進める。
- ・校内、地域のボランティアを奨励し、母校、地域に貢献する態度を育てる。

〈学校行事〉

- ・学校生活をより豊かにする体験的活動を展開する。
- ・生徒自らが考え、行事を通して集団の成長するようなものにする。

(6) 保健・安全指導

- ①学校の新しい生活様式に基づくコロナ感染症対策の徹底を図る。
- ②心身の健全な発達を図り、衛生的な環境づくりに努める。
- ③学校事故の防止、交通安全指導の徹底に努める。
- ④自他の命の大切さ、安全意識の向上について、計画的・系統的に指導し、自ら災害や危険から身を守る態度を養う。
- ⑤ラジオ体操を奨め、体力作り一校一実践を推進する。

(7) 給食指導

- ①給食指導を通して、食に対する基本的知識を身につけさせる。
- ②望ましい食事マナーを身に付けさせる。(服装、配膳、片付け、あいさつ等)

(8) 情報教育

- ①Ｉ人Ｉ台端末による ICT の効果的な活用を推進する。
- ②SNS の利用、スマホ使用時間など、ネット使用に関する課題や情報リテラシーについて学習する機会を持つ。

(9) 国際理解教育

- ①諸外国の歴史や文化等について理解をすすめ、我が国の文化や伝統を尊重する態度を養う。
- ②キオカック（アメリカ）、タラマラ（オーストラリア）との国際交流を進める。

(10) 環境教育

- ①環境美化、環境保全、資源の有効活用などについて、主体的に考え行動できる資質を養う。

(11) 特別支援教育

- ①あすなろ、かしのきの特別支援学級担当者相互、他の教職員、保護者及び関係機関との連携を進め、全職員が特別支援教育への共通理解を図る。
- ②個々のニーズや困難さに応じた指導内容や指導方法を工夫し、個別の支援を充実させる。
- ③自立心を養い、交流や共同学習の場面を通して円滑な人間関係を築けるよう育てる。

(12) 読書教育

- ①心を豊にする読書教育を積極的に行う。(朝読書の継続的な実施)
- ②授業で図書館の活用を進める。

(13) 保護者・地域との連携

- ①学級・学年・学校だより等の発行、学校ホームページによる情報発信に努める。
- ②安心安全メールを効果的に活用し、必要な情報発信を行う。
- ③保護者・地域の願いを把握し、地域に根ざした教育の推進を図る。
(学校開放日、PTAとの連携、地域人材の活用、地域貢献活動)

Ⅰ 全体評価 【 】内の数値は昨年度からの変化。

△〈教職員〉39の評価項目のうち36項目で、肯定的評価〔A(とてもそう思う)+B(そう思う)〕が80%を超えた。 【38項目→36項目(-2項目)】

△〈教職員〉否定的評価〔C(ややそう思わない)+D(そう思わない)〕の割合が20%を超えた評価項目は、「Ⅱ-⑧あなたの学校は、適材適所の校務分掌がなされ、負担について配慮がなされている。」

【77.4%→79.3%(+1.9%)】

「Ⅲ-⑥あなたは、宿題や家庭学習に対する指導を行っている」

【81.5%→76.7%(-4.8%)】

「Ⅴ-①あなたは、教育活動の中に地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている」

【83.9%→71.0%(-12.9%)】

の3項目に増加した。

○〈教職員〉全39項目中、Aが最頻値の項目が12項目、Bが最頻値の評価項目が27項目であった。

【A:11項目→12項目(+1項目)、B:28項目→27項目(-1項目)】

- ・「Ⅰ 学校教育目標」の項目では、5項目のうち3項目でB評価が最頻値である。
- ・「Ⅱ 学校運営」の項目では、8項目のうち5項目でB評価が最頻値である。
- ・「Ⅲ 学習指導」の項目では、7項目のうちすべての項目でB評価が最頻値である。

・「Ⅳ 生徒指導」の項目では、 6 項目のうち 4 項目で B 評価が最頻値である。 ・「Ⅴ 地域との連携」の項目では、 6 項目のうち 3 項目で A 評価が最頻値である。 ・「Ⅵ 学校の特色」の項目では、 4 項目のうち 2 項目で A 評価が最頻値である。 ・「Ⅶ 創甲斐教育」の項目では、 3 項目のうちすべての項目で B 評価が最頻値である。	
2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）	
I 学校教育目標に関して・学校経営について 【 】内の数値は昨年度からの変化。	
達成状況	○〈教職員〉全 5 項目で肯定的評価が 90%以上であった。 【昨年度も同様】 「①学校経営方針や学校教育目標に基づいた教育活動を行っている」 「②学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている。」 「③学校の教育活動計画に基づき、実態に即した教育実践を行っている。」 の 3 項目は、肯定的評価（A+B）が 100%であった。 【昨年度も同様】 ○〈教職員〉A 評価の割合が最も高かった評価項目は、「②学年の教育活動計画が、教育目標や重点目標を踏まえたものになっている」であった。 【昨年度も同様】 ○〈教職員〉「⑤あなたの学校は、職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている。」という項目について、肯定的回答が増加している。 【90.3%→100% (+9.7%)】
改善策	・引き続き、学校教育目標や学校経営方針の共有をすすめ、教育活動を展開する。 ・引き続き校務システムの勤務時間管理を活用し、職員の意識改革を行いつつ働き方改革を進める。同時に、校務分掌の平準化や定時退庁日の設定など、実効性のある多忙化改善策を推進していく。
II 学校運営について（保護者用アンケート含む） 【 】内の数値は昨年度からの変化。	
達成状況	○〈教職員〉全 8 項目中 7 項目で肯定的評価が 80%以上であった。 【昨年度も同様】 1 校内業務 △〈教職員〉「①危機管理マニュアル（防犯、防災、事件、事故等）を理解している」という項目に対する肯定的評価は、昨年度より減少した。 【93.5%→80.6% (-12.9%)】 △〈教職員〉「⑤校内研究(研修)に積極的に参加している」という項目に対する肯定的回答は、昨年度より減少した。 【90.3%→83.9% (-6.4%)】 ○〈教職員〉「⑧適材適所の校務分掌がなされ、負担について配慮がなされている」という項目に対して肯定的な評価が微増したが、否定的な評価も、なお 25.8%を占める。 【77.4%→79.3% (+1.9%)】 2 情報発信 △〈保護者〉「④学校（学年・学級）だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる」という質問項目に対する肯定的回答が減少した。 【87.3%→83.0% (-4.4%)】 ○〈保護者〉「⑥授業参観日や学校開放日などは、子どもの様子を知る機会になっている」という質問項目に対する肯定的回答が増加した。 【91.0%→93.8% (+2.9%)】
改善策	・危機管理マニュアルの周知については、実態に合った内容に見直しを進めるとともに、内容が複雑化して混乱しないよう、「ワンペーパーマニュアル」づくりをすすめ、より一層の周知を図る。 ・校内研究については、学習指導上の重要課題であるため、全職員の共通認識の下で授業改善がすすめられるよう、研究を推進する。 ・教員不足のために様々な分掌や仕事が多く割り振られ、負荷がかかっていると感じている職員が増加したと考えられるが、校務分掌の見直しについて、引き続き、細分化されすぎた分掌を統合し、平準化を図ること、職員の負担軽減に努める。 ・引き続き、職員相互の情報共有と情報管理を適切に行い、職員集団が一丸となって学校運営にあたる。 ・積極的な情報発信と学校開放に努めつつ、保護者からの意見を真摯に受け止め、学校運営の改善を図ること「子ども・保護者・地域から信頼される学校」づくりをすすめる。

Ⅲ 学習指導について(生徒用・保護者用アンケート含む) 【 】内の数値は昨年度からの変化。

達成状況

- 〈教職員〉全7項目で肯定的評価が80%以上であった。【昨年度も同様】
- 1 学校での学習状況
- △〈教職員〉「①あなたは児童生徒の学びの意欲を喚起する授業をおこなっている」という質問項目に対する肯定的評価が微減した。【100%→96.7%(-3.3%)】
- △〈保護者〉「⑧学校は熱心に授業に取り組んでいると思う」という質問項目に対する肯定的回答が微減した。【78.0%→75.2%(-2.8%)】
- 〈生徒〉「④学校の授業は楽しいですか」という質問項目に対して、「A とても楽しい」と回答する生徒が微増した。【77.0%→79.0%(+2.0%)】
- 〈生徒〉「⑤先生はよく勉強を教えてくださいか」という質問項目に対して、「A よく教えてください」と回答する生徒が増加した。【45.9%→53.8%(+7.9%)】
- △〈生徒⑥⑦⑧〉「(各教科の)授業の内容はわかりますか」という質問項目に対しても、「A とても分かる」と回答する生徒が増加する一方、「D あまりわからない」と回答する生徒も増加した。【結果の両極化】
- △〈保護者〉「③学校は、一人ひとりの学力向上に力を入れて取り組んでいる」という質問項目に対する肯定的回答が減少した。【47.3%→42.4%(-4.9%)】
- 2 家庭での学習状況
- ▲〈教職員〉「⑥宿題や家庭学習に対する指導を行っている」という項目に対する肯定的評価が減少した。【81.5%→74.2%(-7.3%)】
- 〈保護者〉「⑫お子さんは、宿題(課題)を忘れずにしていますか」という質問項目に対する肯定的回答が微増した。【75.5%→77.1%(+1.5%)】
- ▲〈生徒〉「⑩平日、学校以外で学年の目標時間の勉強(1年70分、2年80分、3年90分)をしていますか。」という質問項目に対して、「あまりしていない」「していない」と回答する生徒が半数近い。【46.7%】
- 同一学年集団の経年変化を追ってみると、「C あまりしていない」「D していない」と回答する生徒の割合は、
- | | |
|---------------|--------------------------------|
| 【R6年度入学生(現中1) | 1年時 42.4%】 |
| 【R5年度入学生(現中2) | 1年時 41.3%→2年時 51.7%】 |
| 【R4年度入学生(現中3) | 1年時 48.5%→2年時 64.8%→3年時 47.7%】 |
| 【R3年度入学生(現高1) | 1年時 27.2%→2年時 53.6%→3年時 38.8%】 |
- となっており、いずれの学年集団でも、2年時の家庭学習が中だるみする傾向がみられた。
- 3 その他、学習に関わる項目
- 〈生徒〉「⑨人前でしっかり自分の意見を言うことができますか」という質問項目に対して「A よくできる」と回答する割合が増加した。【18.7%→28.8%(+10.1%)】
- △〈生徒〉「⑩字をていねいに書くようにしていますか」という質問項目に対して「A よくしている」と回答する生徒が増加(+4.5%)する一方、「C あまりしていない」「D していない」と回答する生徒も増加(+3.4%)した。【結果の両極化】
- △〈生徒⑭・保護者⑭〉「平日一日あたりどのくらいの時間、読書をしていますか」という質問項目に対して「A 2時間以上」「B 1時間以上」と回答する生徒が増加(+4.9%)する一方、「E 全くしない」と回答する生徒も増加(+2.2%)した。【結果の両極化】
- △〈生徒⑮・保護者⑮〉「お子さんは家で、スマホ・タブレット・ゲーム機・パソコンを学習以外で1日あたりどのくらいの時間使いますか」という質問項目に対して、使用時間が長時間化する傾向が見られた。
- 1日に合計2時間以上使っている(A+B+C)と回答した生徒の割合
- | | |
|--------|----------------------|
| 【〈保護者〉 | 63.6%→68.1% (+4.5%)】 |
| 【〈生徒〉 | 75.6%→77.1% (+1.5%)】 |

改善策	・学校での授業について、教職員が考えている以上に生徒が取り残されている心配がある。特に、個々の能力に応じた学力向上について、「個別最適な学び」「子ども主体の授業」を実現する授業改善をすすめ、学力向上をはかる方法を模索する必要がある。 ・対話的な学び、協働的な学びを取り入れる授業が増えた結果、「人前で意見を言える」と回答する生徒が増加したと考えられる。一方で、タブレットの活用が進み、字を書く作業が減少した結果、「字をていねいに書く」ことがおろそかになっていると考えられる。タブレットを使った学習ばかりでなく、文字を書く事も大切な学習の一部であることを意識した授業改善をすすめる。 ・家庭学習については、家庭での発展的な学習がおろそかになっている。学校の授業との有機的な結びつきも含め、「帰宅後にどんな学習をすればよいか」を明示して家庭学習をすすめさせる取り組みを復活させたい。(特に中2時の家庭学習への対応を考える必要がある。) ・スマホやタブレット、ゲームの浸透に伴い、使用時間が増える一方で、読書や家庭学習の時間が減少する傾向にある。電子機器の使用が悪いわけではないが、適切な使用時間の指導をしていく。
Ⅳ 生徒指導について(生徒用・保護者用アンケート含む) 【 】内の数値は昨年度からの変化。	
達成状況	○〈教職員〉全6項目で肯定的評価80%以上であった。 【昨年度も同様】 1 生徒・保護者とのコミュニケーション ○〈生徒〉「⑪困ったことがあったら、相談できる先生がいますか」という質問項目に対して「いる」という回答が75%を超えている。 【75.7%→77.5%(+1.8%)】 ○〈生徒〉「⑮先生は、あなたの良いところを認めてくれていますか」という質問項目に対する肯定的回答が90%を超えている。 【93.2%→93.9%(+0.7%)】 △〈保護者〉「⑩お子さんのことで相談できる先生はいますか」という質問項目に対する肯定的評価が減少した。 【64.0%→58.8%(-5.2%)】 2 問題行動への対応 ○〈教職員〉「⑥生徒一人ひとりを大切にし、愛情と信頼に基づく生徒指導を行っている」という評価項目に対する肯定的回答が100%であった。 【昨年度も同様】 △〈保護者〉「⑦学校は、子どもたちの間違った行動などに対して、指導していると思う」という質問項目に対する肯定的な回答が微減した。 【79.5%→77.9%(-1.6%)】 3 楽しい学校 △〈生徒〉「①学校は楽しいですか」という質問項目に対する肯定的回答が微減した。 【91.9%→89.6%(-2.3%)】 △〈保護者〉「①お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う」という質問項目に対する肯定的回答が微減した。 【86.2%→84.7%(-1.5%)】 4 ネットトラブル ○〈保護者〉「⑮ネットトラブルに巻き込まれたことはありますか」という質問項目に対して、「ある」「ときどきある」と回答する割合が減少している 【13.0%→7.4%(-5.6%)】
改善策	・生徒指導は問題行動に対する対応だけではないことから、引き続き、生活アンケート等をこまめに行う中で、日常的な生徒観察に努め、生徒の困り事や悩みに向き合い、生徒に寄り添った指導を行い「安心・安全な学校」をつくる。 ・学校が楽しいと感じる生徒が多い一方で、不登校生徒数が多いことが本校の課題である。特別な支援を必要とする生徒も年々増加傾向にあることから、個々の特性に向き合い、それぞれに対応した多様な学びをきめ細かく実施していく。 ・ネットが介在したトラブルが増加傾向にある中、SNS等の適正な利用について、ネット集会を開く等の取り組みを進める中で、トラブルに巻き込まれることが少なくなっていると考えられる。引き続き未然防止と早期対応の取り組みを進める。

V 地域との連携について(生徒用・保護者用アンケート含む)【 】内の数値は昨年度からの変化。	
達成状況	△〈教員〉6項目中5項目で肯定的評価80%以上であった。【6項目→5項目(-1項目)】 1 情報公開・情報共有 △〈保護者〉「④学校(学年・学級)だより、ホームページなどから教育活動の様子を知ることができる」という質問項目に対する肯定的回答が減少した。【87.5%→83.0(-4.4%)】 ○〈保護者〉「⑥授業参観日や学校開放日などは、子どもの様子を知る機会になっている」という質問項目に対する肯定的回答が増加した。【91.0%→93.8%(+2.9%)】 ○〈保護者〉「⑤学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けている」という質問項目に対する肯定的回答が増加した。【71.9%→74.0%(+2.1%)】 △〈保護者〉「⑪PTA活動に参加していますか」という質問項目に対する肯定的回答が減少した。【61.7%→57.9%(-3.8%)】 ○〈生徒〉「⑱家の人と学校での話をしていますか」という質問項目に対する肯定的回答が増加した。【75.0%→77.1%(+2.1%)】 △〈保護者〉「⑳お子さんは学校での出来事をよく話しますか」という質問項目に対する肯定的回答が微減した。【69.0%→67.2%(-1.8%)】 2 地域活動への参加 ○〈生徒〉「㉓今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問項目に対する肯定的回答が微増した。【56.4%→59.0(+2.6%)】 ○〈保護者〉「㉒今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問項目に対する肯定的回答が増加した。【46.8%→50.9%(+4.0%)】
	・引き続き、積極的な情報発信と学校開放に努めつつ、保護者からの意見を真摯に受け止め、学校運営の改善を図ることで「子ども・保護者・地域から信頼される学校」づくりをすすめる。 ・学校からの情報がホームページやメールを通して入手できるようになった一方で、子どもから直接話を聞く機会が減少することは避けたい。電子上の情報提供とともに、親子のコミュニケーションを通じた情報提供も大切にする。 ・コミュニティ・スクールに移行したことも踏まえ、今後は保護者に対する情報発信だけではなく、地域への情報発信の方策を考える必要がある。 ・地域行事への参加については、コロナ後、地域の行事が復活していくと考えられることから、積極的な参加を促したい。 ・PTA活動について、本年度、組織機構改革を行ったが、今後も活動が形骸化しないよう、多くの保護者を巻き込む活動を継続していきたい。
	改善策
VI 学校の特色に関して(生徒用・保護者用アンケート含む)【 】内の数値は昨年度からの変化。	
達成状況	○〈教職員〉全4項目で肯定的評価が80%以上であった。【昨年度も同様】 1 あいさつ △〈生徒〉「㉔誰とでも挨拶をしていますか」という質問項目に対する肯定的回答が若干下がった。【90.7%→88.7%(-1.9%)】 △〈保護者〉「㉑学校は、子どもたちに学校以外でも挨拶をするように指導していると思う」という質問項目に対する肯定的回答が減少した。【72.1%→64.9%(-7.2%)】 ○〈保護者〉「㉙御家庭では、お子さんにあいさつをするように言っていますか」という質問項目に対する肯定的回答が80%を超えている。【80.8%→82.9%(+2.1%)】

	2 信頼関係 ○〈教職員〉「④生徒と教師の信頼関係は良好である」という評価項目に対する肯定的評価が100%であった。 【昨年度も同様】 ○〈生徒〉「⑪困ったことがあったら、相談できる先生がいますか」という質問項目に対して「いる」という回答が75%を超えている。 【75.7%→77.5%(+1.8%)】 △〈保護者〉「⑩お子さんの事で、相談できる先生がいますか」という質問項目に対する肯定的回答が減少した。 【64.0%→58.8%(-5.2%)】 3 読書活動 △〈生徒⑦・保護者⑭〉「平日一日あたりどのくらいの時間、読書をしていますか」という質問項目に対して「A 2時間以上」「B 1時間以上」と回答する生徒が増加(+4.9%)する一方、「E 全くしない」と回答する生徒も増加(+2.2%)した。 【結果の両極化】
改善策	・あいさつについては、家庭内でも子供に対して指導をしてあげることがうかがえる。引き続き、生徒・保護者との信頼関係の構築を大切にし、保護司の皆さんによる毎月のあいさつ運動の力も借りつつ、さわやかなあいさつを交わす生徒を育成する。 ・「相談できる先生がいる」と回答する保護者が減少しているため、保護者との信頼関係の構築が急務である。 ・読書活動については、学校での「朝読書の時間（10分）」をきっかけにした、家読の習慣化をすすめる。
Ⅶ 創甲斐教育について(生徒用・保護者用アンケート含む) 【 】内の数値は昨年度からの変化。	
達成状況	○〈教職員〉全3項目で肯定的評価が80%以上であった。 【昨年度も同様】 1 国語力の向上・自己表現力の向上 △〈教職員〉「①あなたの学校は、国語力向上のための取り組みが行われている」という質問項目に対する肯定的回答が微減した。 【96.7%→93.3%(-3.4%)】 ○〈生徒〉「⑨人前でしっかり自分の意見を言うことができますか」という質問項目に対して「A よくできる」と回答する割合が増加した。肯定的評価も増加傾向にあるが、なお、表現を苦手とする生徒も3割近くいる。 【Aの回答 18.7%→28.8%(+10.1%)】 【肯定的回答 67.8%→70.9%(+3.1%)】 △〈生徒〉「⑩字をていねいに書くようにしていますか」という質問項目に対して「A よくしている」と回答する生徒が増加(+4.5%)する一方、「C あまりしていない」「D していない」と回答する生徒も増加(+3.4%)した。 【結果の両極化】 2 体力の向上 △〈教職員〉「③あなたの学校は、体力向上のための取り組みが行われている」という質問項目に対する肯定的回答が減少した。 【100%→90.0%(-10%)】
改善策	・国語力を高める取り組みは、国語の授業のみならず、全教育活動を通じて行われなければならない。特に、表現力と字を書くこと(＝アウトプット)に課題を感じている生徒が多い事に留意し、指導をすすめる。具体策としては、対話的な学びや協働的な学びをすすめ、コミュニケーション能力を育成する。また、タブレットを使った学習ばかりでなく、文字を書く事も大切な学習の一部であることを意識した授業改善をすすめる。 ・体力の向上については、原因がどこにあるかを明らかにしつつ、改善に向けた取り組みを進める。

3 まとめ

<成 果>

- ・昨年度より肯定的評価が増加している項目は、大まかにいえば、学校運営が改善していることの表れであると言える。しかし、細かいところを見ていけば、まだまだ課題は残っているため、今後はそれらの課題と向き合っていくための策を確実に実行したい。
- ・多くの項目において、教職員の評価と生徒・保護者の回答に同様の傾向が見て取れる。これは、学校と、生徒・保護者が同じように課題を感じ、同じ方向を向いて改善しようと努力していることの証左だと言える。今後とも、生徒・保護者との関係性や情報共有を大切にした学校運営を心がけたい。
- ・本校が大切にしている「あいさつ」について、あいさつを「している」と回答する生徒が変わらず多いことは喜ばしい限りである。今後とも、保護司の皆さんによる毎月のあいさつ運動、生徒会主体で実施している小中連携あいさつ運動、校内でのあいさつ活動などを通して、社会に通用する人間として、「まずはあいさつがきちんとできる生徒」を育成したい。

<課 題>

- ・教職員の自己評価から見られる課題点は、多忙化の解消である。職員が健康を損なうことがないように福利厚生や健康管理について配慮していくことは勿論であるが、校務分掌の見直しや平準化を通して、労働量を見直すことに加え、労働の質を改善する事にも目を向けたい。また、職員不足が問題となる中、手が回らない業務が増加することも懸念されるが、学校の本分である「子どもとかわかること」に関する業務だけはおろそかにならないよう、注意していきたい。その意味で、教職員が学習に対する課題を自覚し始めていることも重視したい。すべての項目で最頻値がAではなくBであること、家庭学習への指導や地域人材を活用した学習に課題があると感じていることに加え、生徒アンケートの結果からも授業改善を全教科で実施することが喫緊の課題である。そのために、「主体的に関わっている」という評価の低い校内研修を充実させていきたい。
- ・生徒アンケートから見て取れる最大の課題は学習に関する課題である。
 - 各教科の授業が「わかる」と回答する割合が、教科ごとに大きく差があること
 - 特に学習に関する質問項目について、A回答とD回答の両方に二極化していく傾向が強いこと
 - 家庭学習の時間が減少していることなどからも、より一層の授業改善をすすめるなければならない。具体的には、従来型の知識つめ込み型の一方的な講義形式の授業から、生徒に考えさせる授業、発見させる授業への転換を図る必要があろう。同時に、学校で身につけた知識や技能を生かして家庭学習をすすめられるような学習課題づくり、家庭学習の方法の模索を進めていかなければならない。
- ・不登校生徒への対応も喫緊の課題だと言える。学習活動のみならず、人間関係をつくり、育てるためのスキルをどのようにはぐくむか、具体的には他者とのコミュニケーション能力をどのように育てるかを重視した教育が必要になると考える。
- ・スマホやゲームの使用時間が長時間化するのに反比例して、家庭学習や読書に費やす時間が減少している。SNS等を介したトラブルも増加傾向にあることから、家庭での過ごし方についての課題点を保護者と共有し、学校と家庭が協力して改善していく必要がある。